

さっぽろ雪まつり - 大通会場の内容

大通公園は 1950 年に雪まつりが初めて開催された会場で、今でもさっぽろ雪まつりのメイン会場です。今でもほとんどの雪像がこの 1.5 キロ・12 ブロックにわたり展開します。この会場では、歴史の中でアイスリンクやスキージャンプ台、北海道名物が並ぶ屋台村が定期的に設置されてきました。

ブロック毎のハイライト

公園の 12 ブロックは、1 丁目、2 丁目のように、「何丁目」と呼ばれます。

1 丁目には、札幌テレビ塔がある「J:COM ひろば」があります。テレビ塔の展望台は大通会場全体を見渡すのに最適で、特に夜がおすすめです。大雪像は通常テレビ塔に向いて建てられるため、すべての雪像を見ることができる最高の場所です。

2 丁目は、毎年異なるテーマを持っています。2020 年には、アイヌの伝統、工芸品、料理、音楽などがメインテーマでした。また、雪像への AR・プロジェクションマッピングプロジェクトの会場となりました。

3 丁目は「HTB AIR PARK 広場」となり、トップクラスのスキー・スノーボード選手が技を競います。高さ 24 メートルのモーグルヒルでのフリースタイルジャンプやアクロバットを披露します。

4 丁目の「STV 広場」は一つ目の大雪像があります。このブロックには飲食のコーナーもあります。

5 丁目にはさらに大雪像が並び、こちらでも飲食コーナーが展開されます。

6 丁目は中間地点となり、公園全体に 3 ヶ所設けられる「市民の広場」の一つであるこのブロックには札幌市民による雪像が並びます。こちらの目玉は「北海道食の広場」で、冬の名物地元料理が楽しめます。またこちらにはたくさんのサービス・案内所も設けられます。

7 丁目では毎年異なる国とテーマが設定され、その国の有名な建物や風景をモチーフにした大雪像も 1 基展示されます。

8 丁目は「雪の HTB 広場」で、こちらも大雪像が飲食・休憩場所とともに並びます。

9 丁目は「市民の広場」で、札幌市民による多くの雪像が並びます。

10 丁目には大雪像の最後の一群、中雪像、飲食サービスが並びます。

11 丁目は「国際広場」で、国際雪像コンクールおよび国際広場グルメストリートの会場となります。

12 丁目は最後の「市民の広場」で、札幌市民による雪像が並びます。

インフォメーションとサポート

大通公園には観光インフォメーションセンターが2ヶ所、6丁目と9丁目に設置されています。英語、韓国語、タイ語を話すボランティアが常時おり、お手伝いや通訳案内を提供します。他の言語でのご相談はタブレットを使用して対応可能です。